令和８年度 大館市立長木小学校 学校便り

長木の流れ



【学校教育目標】
「ふるさとに立ち 心豊かで たくましく 生き生きと学び合う 子どもの育成」

～ 子ども、保護者、教師、地域、みんながパートナー ～

令和８年８月２７日〈親子読書特集①・８月増刊号〉

親子読書 素敵な感想 ありがとう

２学期初日、〈親子読書カード〉全て読ませていただきました。
ありがとうございました!!! 保護者の皆様への**感謝**の念でいっぱいです。

「読書活動を活性化したい！」「もっともっと本に親しめる子どもに育てたい！」という学校側の願いに真剣に向き合ってくださった皆様のお気持ちが、読書カードにあふれていました。お子さんと一緒に読書に向き合っている時間を**慈しむ気持ち**、**自分の子ども時代**を思い出したり、**我が子の未来**に思いを馳せたり、湧き出す感情は様々ですが、皆様の熱い思いを確かに感じました。

学校報『校長の本棚』の代わりにおうちの方の読書紹介を、とやや冗談めかして評価アンケートの回答文書に書きましたが、思わぬ形で叶いました。承諾は得ていませんので、お名前は伏せて、**勝手に掲載**させていただきます。校長渡辺、**感謝と喜びでちょっと興奮**していますので、勢いで、この〈親子読書増刊号〉を作っちゃいました。それでは、親子の感想をセットでお読みください。

『バスをおりたら・・・』

〈１年〉とおくまできちゃったけど、おうちにかえれたところがよかったです。
〈親〉バスにのって、いつもとちがうばしょまでいってしまうばめんは、おんなのこのふあんがつたわってきてこわかったけど、さいごにとおくからたんこうのまちをみるふうけいはきれいでした。

『よるのいきものたち』

〈１年〉コウモリがじぶんのなきごえをたよりにして、くらいところでもぶつからないでとぶのがすごいとおもいました。
〈親〉自分の特徴を活かして生きる姿が描かれていました。人間も同じように長所をどんどん伸ばし、人生を豊かにできればいいなと思いました。

『いえない　いえない』

〈１年〉ぼくがおもしろいとおもったところは、かばがザバとでてきたところです。



〈親〉よく知らない人のことを、うわさだけできらいになったりするのはよくないことだし、じぶんのほんとうのきもちを人におしえるのは、ゆうきのいることだとおもいました。

『かわのなかでは』

〈２年〉みんなできいろいおだんごがなにかを話しあっているばめんがすきです。さかなたちがみんなで力をあわせているところだからです。

〈親〉ハラハラする内容だなと思いました。人がつりをしている時、川の中で魚たちがこんなふうに会話していると思うとおもしろかったです。

『黒ねこのおきゃくさま』

〈３年〉わたしはかわいそうだと思いました。とびらを少しあけたらやせた黒ねこが入って来て、足は細いし、おなかもぺちゃんこ。「にゃーお」とないてつめたい体をおじいさんの足にこすりつける力はあったけど、黒ねこは弱いからかわいそうだと思いました。

〈親〉おじいさんが見返りを求めず親切にする場面が心に残りました。どんな時でも親切にすると、相手だけでなく自分の心も豊かになり、良いかたちで返ってくるのだと考えさせられました。

『パンケーキをたべるサイなんていない』

〈３年〉おとうさんやおかあさんは話をきいてくれなかったけど、サイくんのおかげできいてくれるようになって良かったと思いました。

〈親〉「今忙しいから」と話を聞いてあげられない時もあり、この本を読んでドキっとしてしまいました。きちんと向き合って話を聞く時間も作らないといけないな思いました。

『モチモチの木』

〈２年〉じさまがおなかがいたくなって、まめたはこわがりなのに、一人ではだしでいしゃをよびに行ったのがすごいと思いました。

〈親〉じさまへのあいじょうがまめたにゆうきをあたえ、一人まよなかにいしゃさまへ行けることがすばらしいと思った。

『７分間でゾッとする７つの話』

〈４年〉本当にこわいのかなと思いながら読んだ。本当にこわい話だった。一番こわいと思った場面は、最後の方の一人いなくなるところです。読み終わった後にはお母さんと感想をきょう有し合って、一人で読んだ時とはまたちがって楽しかった。

〈親〉二人で本を選んだ。息子が「少し怖かった」と話していたのでドキドキしながら読んだ。「おばけじゃなかったんだな」とホッとしたら…、やっぱりヒヤッとした終わりで、息子と〈怖い〉を共有した。図書館へ行くことはあったが、二人で本を探すのは初めてだったので楽しかった。

『走れメロス』

〈４年〉王が理不尽な条件をつきつけたことに腹が立った。人を信じることをあきらめないことの美しさを感じた。

〈親〉「仲間を信じること」「あきらめないこと」を重要なテーマにしている点はプリキュアっぽいな思った。ラストで暴君が改心して仲間になるところもプリキュアっぽい。

『北の森にヒグマを追って』

〈５年〉心に残った場面は調査をしていた熊が冬眠穴の中で死んでいたところです。調査のための麻酔注射のせいでした。人のせいで死んでしまった熊がかわいそうだと思いました。人と熊が共生できるか考えなければいけないことがたくさんあるんだと感じました。

『海の命』

〈６年〉父が亡くなっても村一番の漁師になるために与吉爺さんの弟子にしてくれるようたのみにいったのがすごいなと思いました。ぼくも何事にもあきらめずに最後まで目標に向かってがんばりたいなと思います。

〈親〉太一が父親の思いを胸に成長していく姿が印象に残りました。命を奪うことだけが漁師の仕事ではなく、海の命を大切にする心も大切なのだと感じました。子どもにも周りの人や自然を大切にしながら、自分で考えて行動できる人になってほしいと思います。

『むしばミュータンスのぼうけん』

〈６年〉歯みがきをしないとむし歯のミュータンスがよろこぶけど、歯が穴だらけになるってわかってよかったし、すこし怖かった。

〈親〉歯を大切にしよう！という本ではなくて、虫歯側の本でミュータンスのために歯はみがかないでくれ！という感じで面白かったけど、虫歯の怖さも分かった。

◇素敵な感想ばかりでした。特集②に続きます。

◇裏面は県発行の防災ハンドブックの抜粋です。参考になさってください。

〈親〉命を扱うことの重さや現実の厳しさが伝わってきます。熊被害の問題と重ねて読むと、人と熊の距離をどう保つかを考えるきっかけになる本でした。